鈴鹿市ベルフォンテン市　青少年相互交流事業
オンライン交流会第２弾を実施しました！！

長引くコロナ禍、昨年に引き続き、ベルフォンテンとの交流事業はオンラインで行うことになりました。

今回は、両市の生徒で９組のペアを組んで、事前にＥメール交換をしました。

中学校１年生から高校３年生の生徒たちが同じ位の年齢の生徒とペアを組み、学校のこと、クラブのこと、趣味の話、将来の夢などについて５月からやりとりをして互いの理解を深めました。

そしていよいよ８月４日、オンラインで両市を結び、それぞれペアの子と画面越しの面会を果たしました。

この交流会には、両市の市長・教育長はじめ、関係者のみなさんにも参加して頂き、子どもたちの交流を見守って頂きました。

初めに両市の生徒の自己紹介とそれを受けて両市長が挨拶をしました。ベルフォンテンの生徒たちは日本語で、鈴鹿の生徒は英語で自己紹介をしました。その後、鈴鹿市長室の疑似訪問をしました。本来生徒の派遣・受入れをする時には、派遣生たちは市長室を訪ねます。昨年のオンライン交流会の時には、ベルフォンテンのベン・スタラー市長が市長室を案内して下さいましたので、今年は、末松市長が執務室や応接室を案内されました。

まずは、動画で鈴鹿市庁舎の市民ロビーに飾ってあったホンダのスーパーカブを紹介しました。これは、本田技研鈴鹿製作所で生産された記念すべき第１号機で、本田宗一郎市が当時の杉本龍造市長に贈呈したものです。

次に末松市長が秘書室を紹介し、秘書のみなさんが画面越しに手を振り挨拶しました。その後、市長室に入り、壁に飾っているものを順に紹介していきました。

鈴鹿市の地図や道路計画の図面、鈴鹿墨の書や伊勢型紙で作られた東海道五十三次の色紙など紹介し、特にベルフォンテンコーナーと称した一角には、ベルフォンテンから贈られた25周年の記念メダルや30周年の友好協定書、また、鈴鹿市制70周年の時にベルフォンテン市議会から鈴鹿市議会に送られた小学校・中学校などのアートワークの紹介もして頂きました。

次に市長席に飾ってあるベン市長との写真やＦ１グランプリのホストシティであることの証となるもの、鈴鹿市の名誉市民の写真などをご紹介下さいました。滅多に見ることのできない部屋を見せて頂けたので、生徒達も大変興味深かったと思います。

ベルフォンテンの生徒からは、「鈴鹿を訪ねたらどこに行くと良いですか？」「鈴鹿が他の都市と比べて特別なことはありますか？」「日本の女性の政治的な立ち位置はどんな感じですか？」「ベルフォンテンに来た時は、何が一番良かったですか？」など次々と質問があり、市長は、鈴鹿の文化体験が出来る鈴鹿市伝統産業会館や鈴鹿サーキットがあること、モータースポーツが盛んでグローバルにお客様が呼べること、また、世界的には女性の地位はまだ高くないが、起業家支援他、女性を応援する取り組みをしている等、丁寧に説明して下さいました。そして、ベルフォンテンの

町はとても美しく、人々の温かさと心地良いもてなしに感動したことも伝えていらっしゃいました。

次に両市の生徒がそれぞれのＥメール交換から学んだことを発表していきました。

日本には、女子だけの学校があること、祭りがアメリカと日本で違うこと、夏休みの過ごし方が違うこと、部活の種類・形態の違い、お菓子の流行の違い、学校の制度の違い、考え方の違い等々、各自が感じたことを話していきました。

日本の男子生徒が、自分のペアだったアメリカの男の子は、自分の言ったことに、いつも、とても共感・賛同してくれて、一切否定がなかったことがすごいと思った。そして、何にでも挑戦して、歴史にも精通していて、夏を満喫していて羨ましいと思った。と話したことがとても印象的でした。

また、日本の女子生徒が、どうしたら同じ位の年の男の子と仲良くなれるか？と聞いたら、ペアの子から「ジョークを言うと良い！」という答えが返ってきて、それがとても魅力的と感じたと話していました。それを聞いていた他の生徒が「どんなジョークを言うのですか？」と質問すると「とにかく人を笑わせてリラックスさせる。“笑う”ことが大事。」と答えていました。“Joke is the Key”ですね！！

また、アメリカでは、学校に属するクラブだけでなく、学校外でも、やりたい人がやりたいことを出来るクラブが多い、ということで、“地域を助けるクラブ”があったり、“ロボティクス”という国際宇宙ステーションとコミュニケーションが取れるようなクラブもあると言っていました。材料費程度で月謝もなく色々なことが学べるのは良い仕組みですね。

最後に各ペアが国際郵便で事前に贈り合ったプレゼントを開封して見せ合いました。折り紙や文房具、ハンディな扇風機、お菓子、お城のブロック、Ｔ シャツやご当地デザインのパーカーや鈴鹿にちなんだ鹿の親子の置物など、それぞれがＥメールをやり取りする中で思いつた品を説明しながら全体で共有しました。

生徒たちの笑顔がはじけた瞬間でした。

交流の中で、日本とアメリカそれぞれの文化の違い・過ごし方の違いが見えてきて、とても面白かったです。
できれば今後もメール交換を続け、友情を育んでいってもらえたら嬉しいです。

今はこうして、オンラインでの交流しかできませんが、やはり、実際に現地に行って、アメリカのスケール感を感じ、アメリカ人の生活の仕方、人との接し方、地域との関わり方、家族の在り方を自分の目で見て肌で感じることは、とても大事なことです。オンラインではわからない要素をたくさん含んでいます。

来年度こそは、リアルな交流が実現するように、社会情勢を見守りたいと思います。

SIFA では、ベルフォンテンから派遣生が来日した時のホストファミリーを常時募集しています。中学生・高校生のお子様のいるご家庭、また、引率者を受け入れても良いご家庭がありましたら、是非、SIFA にご一報ください。